

今は未来のためにある

一人一人が主人公 ~規律を守り、全力で挑戦し、高め合える仲間たち~

No.12 令和7年6月18日 発行者;校長 小倉 大二

【学校教育目標】

校訓「誠実・勤勉・礼儀」に則り、
思いやりの心を持ち、
新たな価値創造に挑戦する中で、
母校への誇りをはぐくむ生徒の育成

コミュニティ・スクール

現在、全国の公立小・中学校で、コミュニティ・スクール事業が行われています。コミュニティ・スクールとは、「地域とともにある学校」をスローガンに、保護者の代表や地域の方々の意見を聞きながら、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくという取組です。

先週の木曜日の午前中、本校で令和7年度の第一回目のコミュニティ・スクール会議が開催され、松ヶ江中学校、松ヶ江北小学校、松ヶ江

南小学校の校長、PTA会長、松ヶ江北、松ヶ江南、伊川地区の自治連合会の代表、校区の民生委員、少年補導員等が一堂に会しました。その中で、本年度の各校の取組等について協議が行われました。

協議の前に、本校生徒の授業の様子を参観いただきました。「どの学年も、落ち着いた授業風景で、安心しました。」と好評をいただきました。

参観後の協議会では、学校の中の話だけでなく、地域での児童・生徒の様子についても情報交換がなされました。協議の中で、「最近の子どもたちのスマホ（SNS）の使い方は大丈夫なのか。」「地域でのあいさつがもっとよくなればよい。」「子育ての参考になる市民センター主催の家庭教育講座にもっと関心を持ってほしい。」等、多岐に渡るご意見をいただきました。

右は北九州市が示す「子どもを育てる10か条」です。ここにあるように、今後も松ヶ江中学校区3校、並びに、保護者、地域と連携し、力を合わせて、子どもたちのよりよい成長をはぐくんでいきたいと思っております。



★「北九州市子どもを育てる10か条」★

- ① 朝は明るく笑顔で「おはよう」
(朝の挨拶から始まる親子の会話、地域の絆。大切ですね。)
- ② 家族にも「ありがとう」と「ごめんなさい」
(親しい仲ほど、忘れがちな言葉。素直な気持ち、伝えよう。)
- ③ 子育ては誉める・叱る・見守る・抱きしめる
(どれかひとつが欠けても、うまくいきません。)
- ④ 聞く時は 子どもの目を見て 心を聴いて
(心の中の「本当の声」に、気づいていますか?)
- ⑤ 食事が楽しいな家庭にしよう
(いっしょがうれしい。愛情がおいしい。)
- ⑥ 大切にしたい 物より体験
(お金では買えない「体験」を、子どもの時から。)
- ⑦ まず親が きちんと実行 社会のルール
(親の背を見て子どもは育つ、と申しますから。)
- ⑧ 声かけて 地域の宝 子どもたち
(誉めたり叱ったり認めたり。わが子と同じ愛情をもって。)
- ⑨ 教えよう 平和といのちと助け合い
(世界の話、地球のいのち、いっしょに考えよう。)
- ⑩ 子どもと夢を語り合おう
(夢をもつ、実現しようががんばる。成長の原点です。)

すす きょういく 進む教育DX

さいてんしえん 採点支援システム

さくねんど とちゅう きたきゅうしゅうし ぜんちゅうがっこう
昨年度の途中から北九州市の全中学校に、
きょういく
教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)の
ひとつとして、テスト等を AI が自動採点したり採点の
こうりつか はか さいてんしえん
効率化が図られたりするアプリ(採点支援システ
ム「百問繚乱」)が導入されました。

みぎしゃしん のように、かいとうようし をデータに取り込み、
パソコン内で○×を処理し、点数をつけていきます。
また、「ア」や「イ」等の読み取りやすい記号や数値
については、AI が判断し、○×を付けてくれます。



(※ AI の誤採点がないように、最後に必ず教師の目で確認しています。)

このアプリを使用することにより、今までテストの採点に要していた時間や成績の集計にかかっていた時間
がかなり短縮されます。実際、昨年度からこのアプリを使っている先生方に使い勝手について尋ねたところ、
「採点にかかる時間が今までの半分以下になりました。」という感想を聞くことができました。

ただ、このアプリを使用すると生徒が記入したテスト用紙に直接○×をつけるわけではないため、別の紙
【業者テストと同じような採点後のデータを印刷した紙】でのテスト返却となります。

(※ まだまだ導入段階です。教科の特質上、今まで通りの採点方法で返却される場合もあります。)

じょうほう じたく げんかん は その情報、自宅の玄関に貼れますか？

ぜんごう つづ かん ちゅういかんき すうねん こ ほじりつ たか
前号に続き、SNS のトラブルに関する注意喚起です。ここ数年、子どものスマホ保持率が高まる
と同時に、スマホ等のSNSでの様々なトラブルも多く発生し出しています。中には、いじめや
ふとうこう につながつたり、けいさつざ た になったりするケースもあります。特に、不名誉な内容が、不特定
たすう えつらん こうかい ばあい きほんけいさつ そうだん ほうどうとう
多数が閲覧できるサイトに公開された場合、基本警察に相談することになります。そして、報道等
ご存じと思いますが、そういった事件を起こした場合、大人は社会的責任を負うのは当たり前ですが、
SNS の事件に関しては、子どもも取り返しのつかない結果を招いているのが現状です。

そこで、アプリ会社主催の研修会で、「SNS の使い方」についてとても納得のいく説明を聞いた
ことがあるので、その内容について以下に紹介します。

SNS に上げられる情報(文言・写真)は、家の玄関に掲示できるか否かで判断するとよい。

SNS の使用については、学校外での使用が基本なため、家庭での約束やルールづくりが大切にな
ってきます。軽いノリで「ライン」や「インスタ」等に写真や動画(人を傷つけるメッセージを含む)
を投稿することがないように学校でも指導や注意喚起を行っていますが、保護者の方々の、お子様
のSNSの使用状況について定期的にご確認いただくようお願いいたします。